



レハール作曲『ルクセンブルク伯爵』を味わい尽くす(その1)

お話・演奏：田辺 秀樹（一橋大学名誉教授）

今回は、フランツ・レハールが『メリー・ウィドウ』の次に作曲したオペレッタ『ルクセンブルク伯爵』（1909年ウィーン初演）を取り上げます。パリ生活を満喫する放蕩貴族と彼がご執心の美人オペラ歌手、貧乏画家とそのモデル、ロシアの老貴族などが登場して愉快的恋の鞘当てを演じる、ちょっとプッチーニ作曲の『ラ・ボエーム』に似たところもある楽しい作品です。詳しい解説のあと、日本語字幕付の映像で前半を鑑賞する予定です。

後半はお飲物とともにピアノ演奏をお楽しみいただきます！

なお、講座に先立つ2月10日(日)と11日(月・祝)に、日本オペレッタ協会がこの『ルクセンブルク伯爵』を日本語で上演しますので、ご案内いたします。会場は北トピア「つつじホール」。10日が17時開演、11日が14時開演(ダブル・キャスト)です。問合せは日本オペレッタ協会 電話090-2257-4233 (田中さん)。入場料8000円・全席指定。

日 時 2019年 2月19日 (火) 14:00~16:30

参加費 ¥3,500 (ワイン、お茶、おつまみが付きます)

会 場 カーサ・モーツァルト
東京都渋谷区神宮前1-10-23 3F

JR「原宿駅」徒歩5分
東京メトロ「明治神宮前駅」出口5徒歩2分
ラフォーレ原宿裏、東京中央教会前



申込み メール：info-cmma@casamoz.org

FAX：03-3497-1833

メールまたはFAXにお名前、ご連絡先、ご希望人数を明記ください。

田辺 秀樹 (タナベ ヒデキ)

1948年東京生まれ。東京大学大学院ドイツ文学科修士課程修了。
ボン大学に留学し、ドイツ、オーストリア各地でオペラ見物やコンサート通いに精を出す。専門はドイツ語・音楽文化論。研究対象はモーツァルト、ドイツ語圏の歌曲、歌劇、芸能など。音楽評論、放送番組解説でも活動、
秘かに「酒席ピアニスト」としても活躍している。
著書に「モーツァルト」（新潮文庫）、「モーツァルト16の扉」（小学館）。
「リヒャルト・シュトラウスの実像」（共著・音楽之友社）ほか。

